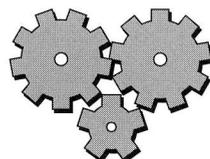


NPO法人
北九州TSニュース
Kitakyushu Techno-Support

2006

1



通巻6号／平成18年1月16日発行
発行／NPO法人 北九州テクノサポート
・発行人 秦 吉昭 ・編集人 三上 亨
北九州市戸畑区中原新町2-1・北九州テクノセンタービル1F
〒804-0003 Tel・Fax093-873-1453



新年のご挨拶

NPO法人 北九州テクノサポート
会長 秦 吉昭

新年明けましておめでとうございます。我が国の経済は昨年引き続き製造業をはじめとして、おおむね産業界は堅調を維持しております。然しながら途上国の追い上げや原油、原料高は免れず、一部には量的な陰りもささやかれており、この中における中小企業の皆様の日夜にわたるご努力に深く敬意を表するところであります。

さて、当北九州テクノサポートの昨年を顧みますと、前身のTS会から10周年、NPO法人化からやがて3年を経過し4年目を迎えようとしております。現在、正会員数74名が活動しております。部会活動は「広報」部会と5支援部会「技術・経営」、「産学連携」、「ISO・EA21」、「ECO」、「IT」です。

特に昨年4月「エコアクション21地域事務局福岡」の認定を受け、NPO法人北九州テクノサポート内に設置し、「相談・コンサル・申請・認証からフォローまで」の一貫業務を行っています。また「ITによるコミュニティビジネス事業」を受託し、IT講座等の業務を展開しております。その他には「金属プレス成形金型産学連携研究会2年目」で実践的な研究段階に入り、北九州市の「北九州エコプレミアム事業への協力」、山口大学の「エコ・テクノ企業訪問コーディネーター事業」、「ISO・EA21認証取得、内部監査企業支援」、「中小企業への技術協力」、「九工大コーディネーター派遣」、「北九州TSニュースの発行」、「当法人活動のテレビの放映や新聞での紹介」等々の活

動があり、進行中でもあります。これも偏に関係各機関のご理解と会員皆様のご協力のお陰だと感謝しております。

やがて「石の上にも3年」が過ぎようとしておりますが、更に充実した活動を継続し軌道にのせるために、前年をブラッシュアップした部会活動を行い、基盤強化に努めたいと考えております。

新年にあたり、昨年からの継続プロジェクトを推進することはむろんですが、中小企業の皆様をはじめ市・県、関係団体、大学等との親密な連携をはかり、各部署のシーズ・ニーズの情報を受け止め、推進したいと考えております。

また、我々の活動にご賛同いただく方々の会員を広く求めておりますので、ご紹介或いはお尋ねくだされば幸いです。

今後とも、会員皆様のご協力と、関係各位皆様のご支援・ご協力並びにご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。





新年のご挨拶

北九州市長 末吉興一

あけましておめでとうございます。

昨年は、福岡県西方沖地震やマラッカ海峡での市内海運事業者の拉致事件等、これまで想定していなかったような危機に直面しましたが、各関係機関との連携のもと、乗り越えることができました。また、地域レベルでも、市民の皆さんの「生活安全パトロール隊」や警察との連携等の効果もあり、犯罪発生件数の減少など、着実な成果があがっています。まさに、日ごろの安全・安心や危機管理への取り組みの効果が目に見えた一年でした。

危機管理等における市民の力や市民と行政の連携がますます重要になる中、決意も新たに、今後も安全で安心なまちづくりに取り組んでまいります。

さて3月16日には、市民の長年の夢であった新北九州空港がいよいよ開港します。北九州市に本社を置く新規の航空会社も設立され、海上空港の利点を活かした早朝・深夜便の運行や貨物便の就航も決まるなど、200万都市圏の空の玄関にふさわしい態勢を整えてのスタートです。

今後は新北九州空港をはじめとする「陸・海・空」三拍子揃ったネットワークの基盤に加え、「北九州市国際物流特区」「東アジア経済交流推進機構」等のソフトも活かしながら、成長著しいアジアに目を向けた物流・産業戦略を積極的に進めます。また、新空港の開港による賑わいや交流人口の増大に対応した新たな産業の振興にも取り組みます。

本市が一貫して力を入れてきた「モノづくり」

については、「製造業の日本回帰」なども追い風となり、自動車関連産業や情報関連産業を中心に市内への新規立地や大型投資が進んでいます。本市の有効求人倍率もバブル崩壊以後最高水準にあるなど、これまでの取り組みが形となって現れつつあります。

このような動きをさらに加速させるため、カーエレクトロニクスをはじめとした自動車関連産業の振興や環境などの次世代産業の育成にも力を注ぎます。

市民生活に身近な分野についても、地域・区・市の三層構造を活かした「地域づくりの北九州方式」や子供の優れた特性を伸ばすための「教育の北九州方式」等、これまでの取り組みを活用して、質の高い市民生活の実現を目指します。また、「世界の環境首都」実現の取り組みも一層充実させます。

現在、来年度からの新しいまちづくり計画の素案を市民の皆さんにお示ししているところです。今後はこの計画に基づき、人材育成などに取り組み、まちづくりを着実に進めることにしています。

地方分権社会が進展し、地方の真の力が試される時代、挑戦する気持ちを持ち続け、高齢社会にも対応した活力のある住み良い北九州市の実現に全力で取り組んでまいります。

新しい年が北九州市のさらなる飛躍の年となり、皆様にとっても、希望あふれる良い年でありますよう、心からお祈りします。

啓
春

NPO法人北九州テクノサポート

| | | | | | |
|-------|-------|-----|-----|-------|---|
| 会 長 | 秦 仲 川 | 吉 昭 | 理 事 | 小 野 晃 | 一 |
| 副 会 長 | 仲 川 | 隆 喜 | " | 後 藤 禎 | 二 |
| " | 小 川 | 勝 昌 | " | 島 谷 哲 | 雄 |
| 理 事 | 米 沢 | 昌 亨 | " | 鳥 越 年 | 高 |
| " | 三 上 | 亨 浩 | " | 重 藤 将 | 美 |
| " | 石 川 | 浩 静 | 監 事 | 増 田 幸 | 一 |
| " | 安 東 | | | | |

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2番1号 (株)北九州テクノセンター内
TEL・FAX (093)873-1453 <http://www.npo-kts.org/> E-mail: npo-kts@npo-kts.org

新 春
座談会

中小企業支援とKTS活動



正面小林部長、右側植木専務、坂本会長、左側秦会長、手前司会三上

◇出席者 (順不同)

小林 正己
北九州市産業学術振興局地域産業部長

植木 利雄
（財）北九州産業学術推進機構専務理事

坂本 勝
（財）北九州中小企業団体連合会会長

秦 吉昭
NPO法人・北九州テクノサポート会長

三上 亨（司会）
" 理事・広報部会長

三上（司会） 本日のテーマは、「中小企業支援とKTS活動」、まずそれぞれの立場から、このテーマに即して1年を振り返って頂きたい。

この1年を顧みて

モノづくり振興を推進

小林 市では、昨年2月に「北九州市モノづくり産業振興プラン」を策定した。



これは、15年8月に作成した「北九州市科学技術振興指針」を踏まえたもので、モノづくり産業全体の振興を図る具体的な基本戦略と施策を示したアクションプラン（行動

計画）である。その内容は、大きくは次の3つに分れている。

1. 中小製造業を中心とする地域企業の競争力強化への支援
2. 次世代産業の創出・育成の促進
3. ベンチャー企業の創出・育成の促進

これに対応して17年度から、従来の産業振興部が、主として2と3を担当する新産業部と、1を担当する私の方の地域産業部に組織変更された。

当部では、この1年、地元産業の得意技術や保有設備等を紹介するデータベースの拡充、マーケティング形成や新技術開発支援の促進等に重点的

な取り組みを図ってきた。

市と一体となって事業推進

植木 わが北九州産業学術推進機構（FAIS）ができて約5年を経過した。

その大きな柱の学研都市づくりは、今年で5年目に入った。まちの活性化には、知的な頭脳づくりが不可欠ということで、各種の大学等を誘致してきた。ここで育成された人材が地域に残って、新しい産業づくりの力になることを目指している。

その中で産学連携や新産業創出の研究等にも取り組んでいる。



も一つの柱は、テクノセンターから引き継いだ中小企業支援であり、既存企業の高度化やベンチャー支援等に当たっている。

いずれも市の産業政策に基づき一体となって推進し、徐々に効果が上がっているが、本格的にはこれからだと思っている。

坂本 わが北中連は、昨年で50周年の大きな節目を迎えた。この1年、まず感じたのは何といても“景気回復”と言うことだ。モノづくりを先頭のこの回復に久々に笑顔が出た年だった。

仕事も金融も好転、雇用も改善された。北中連の求人対策活動も、不況時に20人のスタッフでやっていたのを現在は10人がかりで、以前よりグンと実績を挙げている。

この1年、一番力を入れたのは環境問題だ。市長がルネッサンスは仕上げ段階に入ったと言われたが、私はその中で特に盛り上がっているのは次の3つだと感じている。

その1つは福祉の充実、2つ目はエコタウンで、これは胸を張って良い。この前見学したPCB処理工場などは、比類のない誇りだ。今後エコ産業も急速に成長していくだろう。3つ目が、今お話のあった学研都市だ。

北中連は、この3つのいずれにも関わっているが、今後もその支援協力に当たっていききたい。



法人化後3年で軌道乗せ

秦 わがKTSは、NPO法人化後3年、前身のT・S会以来10年経過した。法人発足当初は、不安を持っていたが、この1年で各種事業をようやく軌道に乗せつつあるように感じている。



特にエコアクション(EA)21の地域事務局の地域事務局の認定を受け発足したのは、企業の環境経営のサポート役として、相談～コンサル～申請～認証からフォローまでの一貫業務であり、大きなエポックとなった。

2点目は、ITによるコミュニティビジネス事業の受託である。すでにその趣旨に基づき「パソコン講座」を開催している。

むろん従来からの支援事業も進展しているが、この1年で見ると前述の2点が最大の特徴だ。

自動車参入が持ち越し課題

三上 この1年、前進と成果の反面、問題点や積み残し課題はなかったか。

小林 120万台生産へ、本県中心に北部九州のカーアイランド化が進展している。関連メーカーの進出も相次いでいる。地元での部品調達率が現在50%、実際にはもっと低いと言われている。地場企業の新規参入促進による地元調達率の向上がメーカーから要請されている。これへの対応が、市の施策として直面する大きな課題だ。

植木 この問題は、市施策の実行部隊としてのFAISにとっても共通課題だ。実際に当たってみると積極的な所が少ないようだ。

坂本 現状は確かに地元の取引業者は少ない。これには、技術とかコストの問題等もあるが、1つ大きい問題として取引条件の制約がある。自動車産業の商談会に出ると、“ISO14000の取得者であること”と明示されている。膨大な金と手間を要するISOの取得は、大方の中小企業にとって重荷で、現在の取得者はごく少数だ。この取引条件をEA21でも可とするなど緩和して頂ければ、もっと希望者は増えるのではないか。

秦 その背景の1つには、大手の親企業ではそれぞれ独自の認定制度を持っていて、必ずしもISOやEAの取得を要しないということがある。

実際に業者に聞いてみると、組み込まれてしまって自由が効かないとか、リスク負担が過重とかいろいろあるようだ。

新年の展望と抱負

三上 それぞれに新年の展望と抱負をお伺いしたいが、まず議論の続きから入って頂きたい。

メーカー提案に前向き対応

小林 自動車メーカーから、地元の既取引業者の受注増も有り難いが、もっと新規業者の参入で調達率を引き上げたいということで、その希望業種のリストを示されている。

その該当業種で意欲のある所には、直接指導に派遣しても良いというお話が来ている。

市としても、この要請に応じて研修や商談会など地元調達率のアップに取り組んでいきたい。併せて関連メーカーの誘致も促進する。

もちろん、全般的には冒頭に述べた3つのアクションプランの積極的推進を図る所存である。

産学連携と支援活動を推進

植木 平成8年に着手した学研都市づくりは、この3月で完成、第2期工事も並行して着々進捗している。建物づくりは目に見える形になって来たが、その機能を発揮しての効果を出していかなければならない時期に入ってきている。新年度は、産学官の連携を深めつつ、大型研究のプロジェクトを進めていきたい。

も一つの柱の中小企業支援センター事業では、従来からの相談業務の充実のほか最近では販路開拓に東京、大阪まで出向くなどエリアを拡げてお

り、その拡充強化を図っていく所存である。

E A21のPRに全面協力

坂本 私は、金と手間のかからないE A21認定制度の出現は物凄いヒットで、中小企業にとって大きな福音だと思う。外部へのアピールには第三者の評価が重視される。金融機関でも、財務諸表だけでは読み取れない企業体質の評価に活用されるのではないかと。北中連としても、本年はこのPR普及に積極的に取り組みたい。

それと、「企業の社会的責任」が叫ばれながら、これが崩れつつある。最近の「耐震強度偽装事件」が典型的な事例だ。もちろん技術は大切だが、精神面はもっと重要。新年度はこの「企業モラルの向上」も強調していきたい。

E A21・ITの普及に努力

秦 行政には、各方面から種々情報が入ってくる。K T Sには、これを噛み砕いて判りやすく業界・業者に伝える役割の仕事がある。

先般トヨタ見学の折、研究所長から最近の部材調達では、一頃の“軽くて経済的（アルミ、プラスチックへ）”から、“薄くて強い（抗張力鋼）”かつ、高効率のリサイクルへと、重点がシフトしつつあるとのお話を伺った。

業界のお手伝いには、各方面から入手した情報を整理加工して的確に伝達することが必要、そのためにはしっかりと勉強もせねばと思っている。

新年度は、ようやく整ってきた基盤に立脚し、恒常的な業務となったE A21の普及からフォローまでとITのコミュニティビジネス業務に力を入れていきたい。この取り組みを通じて、自動車産業界への参入にも係われたらと念じている。

坂本 ITの取り組みについても、積極派と消極派の落差が大きい。ゼロ・エミッション（ごみゼロ）計画でも集団取り組みがなかなかまとまらなかった。現実には、その悩みがある。

小林 現在のところ、親企業が好調でリスクの大きい新規分野へのチャレンジを避けている傾向も見られる。自動車への参入の動きが鈍いのも、その表われではないか。

しかし、この好況が永続するわけではない。落ち込んだ時のことも考えておく必要がある。

折角直接指導の提案もあっているので、仕事をする中で技術を身につける方法もあると思う。

K T Sへの期待・要望

三上 法人化後3年を経て基盤もかなり固まり、本年は大きく前進の年にせねばと期待している。

そこで、平素から格別のご支援ご協力を頂いているご出席の各位から、ラストに期待・要望を頂きたい。辛口のご批判やハッパもぜひどうぞ。



連携と支援で飛躍の年へ

小林 ご要望のあった「E A21」のPR普及活動は、ぜひお願いしたい。市も連携して積極的に取り組みたい。

それと大きな課題は、「2007年問題」である。優れた技術を持った人々が大勢退職される。この方たちを、ぜひK T Sに取り込んで大いに活用して頂けたらと期待している。

植木 K T Sには、会として、また、会員個人として、わがF A I Sは大変お世話になってきている。これからは、いろんな技術を持った人をさらに増強して、F A I Sとの連携を深めつつ活動して頂きたい。

坂本 2007年問題が提起されたが、団塊の世代の放出でいちばん懸念されるのは、優れたモノづくりの技術・技能の消失の心配だ。

そうはさせない受け皿として、K T Sの役割への期待は大きい。

それにしても、K T Sの認知度はまだ低い。中小企業の利用者はまだごく一部で偏っている。なぜ利用しないか、未利用者へのPRとアンケート調査をされたらどうか。

それと繰返しになるが、E A21のPR普及には北中連としても全面的に支援協力したい。

小林 F A I Sとの連携については、さらに深めて頂きたいが、自前の独自活動も遠慮せずどんどんやって頂いて結構だと思う。

〈この後、秦会長より謝辞があり閉会〉

●おことわり

この座談会は、紙数の制約からご発言の一部を圧縮又は割愛させて頂きました。しかし、大意はお伝えしたつもりです。文責は編集子にあります。ご了承方お願いします。

K T Sの動き

部会活動を軸に事業進展 年末理事会で総括審議

K T Sでは、昨年12月4日（日）、岡垣町波津の「はつしろ」で定例理事会を開催、部会活動及び中間収支報告を受けて後、新年に入ってから活動方針について審議しました。

K T Sでは、発足以来毎月1回（原則として第1週火曜日）を定例理事会とし、事業運営の衝に当たってきています。

そのうち年末は、T・S会以来の慣例として一泊（費用は各自負担）、議事終了後は懇親会の席に切り換え、懇親交流を深めてきました。

今回も16時から始まった会議では、部会活動報告で一段と充実した実績が各部長から報告され、その中味をめぐって熱心な討議が交されました。

次いでその新年会報プランの審議では、充実の度を増ししだいに実効を挙げてきた部会活動に頁



H17.12.4 理事会（「はつしろ」で）

数を増やすこととし、また、協賛広告のコマ数増に各理事が責任分担して当たることを決めました。

議事終了後は一服少憩の後、席を移して懇親会に入りましたが、東北出張帰りに駆けつけた小川副会長が手土産に秋田の原酒（42度）と大吟醸の銘酒を贈呈、新鮮な海の幸を肴に盛り上り、一夕の歓を尽くしました。

関連記事及び部会活動報告は、本頁下段から7、8頁に記載のとおり。

パソコン講座を開設実施中

～コミュニティビジネス事業～

当K T Sでは、(財)九州地域産業活性化センターの平成17年度「コミュニティビジネス事業化支援事業」に応募して採択され、目下その受託事業に取り組んでいます。

本事業の具体的内容は、

- ① ホームページによる営業支援
- ② Excel・Accessを活用した売上管理・品質管理及び業務改善支援等

のうち、地域中小企業又はその集団が対応可能で希望する課題を設定して頂き、

- ③ 当K T Sから会員が専門家派遣員として希望先に出向き、設定課題の達成を支援する仕組みになっています。

しかし、この目標をクリアするには、I Tについての理解が大前提になります。

本事業の担当はI T支援部会ですが、内部で検討の結果、“I Tをどのように活用すれば、業績の改善向上成果が得られるか”を裾野広く理解して頂き、“その課題設定の輪を相互にリンクすること”が必要であるとの認識で一致しました。

そこでその第一着手として、「中小企業の業績改



パソコン講座の実施風景

善に役立つパソコン講座」を開催することとして、まず北九州工業団地協に呼びかけ賛同を得て実施の運びに至りました。

同団地でのパソコン講座には18名が受講、3回コースで2回行いましたが、終了後のアンケート調査では、1名が物足りなかった、1名がついていけなかったの回答以外は、大半は満足したとの反応があり、先ずは好調な滑り出しでした。

当K T Sでは、このパソコン講座を各所で順次開催していく計画であり、域内中小企業又はその集団の積極活用を望んでいます。ご連絡下さい。

☆部会活動概況 (17. 9～)

○技術・経営支援部会 (小野晃一部会長)

・技術支援

「M社」へ当会員 I 氏が週 2 回出向き、ユーザーの立場から、関連の「製造プロセス」の紹介や助言を実施。〈下写真〉



・中小企業支援センターへ派遣

相談室 2 名、専門家派遣 6 名。

・北九州エコプレミアム産業創造事業へ協力

北九州市環境産業政策室に協力、展示会 (10. 19～21) でエコプロ (20件)、エコサービス (15件)、環境機器等 (3 件)、その他 (2 件) が展示紹介。

・エコ・テクノ2005業務活動

山口大学から「エコ・テクノ企業訪問コーディネート業務」の依頼あり、会員 7 名で 85 社を訪問 (9. 26～10. 21)。

展示会 (10. 19～21)、セミナー案内、協同研究への紹介等を実施。

・九州工業大学へ協力員派遣

コーディネーター 3 名。

○産学連携支援部会 (石川浩部会長)

・「金属プレス成形金型産学連携研究会」活動

本研究会の業務を、福機連を通じて受託、16～18年度 3 ヶ年計画に基づき、下記同研究会の実施事業の中核となって協力支援。

(1) 北部九州の自動車部品メーカーの多段成形ニーズに対応、One-Step法に引き続き“増分法”解析ソフトを北九州市立大学に導入、その有効性の比較検証及びOne-Step法への補完についての研究

研究会 本年度末まで 4 回、セミナー 1 回実施

(2) 平成 17 年度経産省の「生産現場における中核人材育成事業」に金型をテーマに応募採択され、その中の「絞り金型設計講座」の研究拠点として北九州市立大学国際環境工学部の担当で開設。

現在、当研究会会員企業 5 社、その他 2 社から 11 名が参加、17 年度末まで 7 回実施。



18 年度早々、本講座の実証試験として試作金型による現場プレス実験を計画、現在その準備中。

・企業の新商品開発 (T L O 支援活動を推進)

北九州地域の中小企業者向け「北九州 T L O 保有の技術」〈未公開特許情報〉を紹介。その内容は「北九州地域の大学等 (大学 7 校、高専 1 校) 並びに九州地域の大学等、山口大学、広島大学及び東京農大等の先生方の研究成果を特許化した技術シーズ。

○E C O 支援部会 (島谷哲雄部会長)

・環境行政施策への協力活動

(1) 2 月に当部会員 1 名が、KITA のコースリーダーに就任、海外研修員への教育・世話をを行う予定。

(2) 17 年 8 月に当部会員 1 名が、北九州市地球温暖化対策地域推進計画策定委員会委員に就任 (18. 3 月まで)、京都議定書目標達成計画に即した市計画の策定に際し意見具申・提案。

(3) 17. 11 月に当部会員 1 名が、17 年度省エネルギー普及指導員に任ぜられ活動中。

・専門技術等を活用した活動

(1) 17. 10 月のエコテクノ 2005 期間中「環境ビジネス」技術相談窓口の相談員として勤務 (2 名)。
〈下写真：会場風景〉



(2) 17. 11 月、市主催「自動車部品産業に求められる生産管理」講演会に、会員 (技術士・経営工業) が講師を担当。

(3) 山口 T L O (9 月)、北九州 T L O (17. 11～18. 2 月まで) の特許活用先を探して企業を

訪問活動中（会員1名）。

(4)地球温暖化や原油高等で省エネニーズが高まる中、省エネ専門の新会員1名の加入もあり、新たな活躍の場を調査中。

○ I S O ・ E A 21支援部会（小川 勝部会長）

・ 企業支援及び研修に関する活動

(1)D社のISO14001取得に関する研修及びコンサル受注

(2)E A 21実践講座（後期12月～2月までの4回）・17. 12. 2実施要領勉強会実施。12社参加が決定。＜市環境局から受託＞

・ 関係機関・団体に対する渉外活動

(1)北九州市環境局へ2006年度EA21関連セミナーの一括受託見積書提出

(2)NPO法人・C主催の環境ECO展（17. 12. 8、9開催）に協力、当KTS後藤理事が講師を担当。

・ E A 21地域事務局福岡の動き

(1)17. 12月判定委員会 2件、累計6件

(2)佐賀市の自治体イニシャルプログラムによる研修を実施。

中央事務局より、18年度も実施する旨の通達あり、大分・山口県、筑豊に呼びかけ予定。

(3)中央事務局と当地域事務局共催による普及セミナーの17年度予算の追加あり、実施を検討中。

○ I T支援部会（安東 静部会長）

・ コミュニティビジネス事業支援化事業

本事業趣旨に基づき、パソコン講座開催を企画、第一着手として北九州工業団地(協)で実施。（この詳細は、6頁に記載）

現在、本事業について広報PRし募集中。

・ その他活動

(1)ホームページ作成・運用支援

(2)インターネットによる広報

(3) I T支援事業

これら事業を随時実施、K T Sの認知度向上と利用増に努力。

○ 広報部会（三上 通部会長）

・ 会報「北九州T Sニュース」新年号発行（12頁・1200部）関係機関・団体、会員及び域内中小企業等に配布。

・ 「新春座談会」開催

「中小企業支援とK T S活動」をテーマで、市地域産業部、FAIS、(株)北中連及びK T S代表が参加。その要旨を新年会報に掲載。

テレビ、新聞等でも報道 注目されてきたK T S活動

NPO法人化後3年、しだいに活発化し、基盤づくりも進展をみたわがK T Sですが、この状況を反映して、テレビ、新聞等のメディアでも、そのユニークな存在を注目し始めたようです。

その表われとして

○ 17. 8. 17付読売新聞朝刊報道

「技術者OB中小支援」の見出しで、K T Sの活動状況が“全国的に見ても、先駆的な活動を展開している”と紹介。

○ 17. 10. 26 T V Q放映

17：30からの「高齢の術」番組の中で5分間、(株)松島機械研究所、(株)九州発条での支援活動とオーナー談に秦会長所信も披露、K T Sを“シニア世代のOBたちがこれまで培った技術・経営ノウハウを支援、協力し活発に活躍している”と紹介。

という報道がありました。



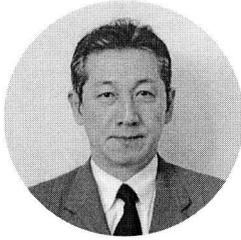
中村 浩氏のご逝去 中小企業支援に一筋

中村浩氏（前中小企業支援センター・サブマネージャー、元市中小企業支援センター次長）

が、昨年12月30日に急逝されました。享年69歳。

告別式は、新年1月3日、八幡東区・積善社東山斎場で執り行われました。突然な訃報に、折悪しく年末年始の休日が重なって連絡の取り難い日取りでしたが、市、関係機関・団体の役職員・OB、生前親交のあった中小企業者や知人、八高6期生にK T Sからは秦会長ほかが参列、総数200名近くにのぼりました。

故人は、市在職時から昨年夏に倒れるまで、長期間にわたって中小企業とりわけ製造業に親身で的確な指導支援で貢献されました。K T Sには、前身のT・S会時代からいわば“育ての親”ともいべき存在でした。心からご冥福をお祈りします。

新春
随想

新春のご挨拶

福岡県商工部新産業・技術振興課長

松 家 繁

明けましておめでとうございます。秦会長をはじめ会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より本県の産業振興に積極的に御尽力いただいておりますことを、厚くお礼申し上げます。

これまで本県が推進してきました「北部九州自動車100万台生産拠点プロジェクト」につきましては、国内で同社最大規模の工場である日産自動車九州工場の順調な生産や、トヨタ自動車九州の増産などにより、自動車生産台数は目標の100万台を超えることが確実となってきました。

本県では、昨年から実施している自動車メーカーOB等による「生産改善指導事業」をはじめ、各種事業により地元企業の自動車関連産業への参入等を積極的に推進しているところです。

これらのものづくり産業の振興につきましては、平成16年7月に設立した「福岡ものづくり産業振興会議」を中心に、技術・技能向上や人材育成を推進していますが、「金属プレス成形金型産学連携研究会」の開催など、北九州テクノサポートの皆様の日頃の御活動、御協力に大きく支えられています。技能者の大量退職時代を目前にして、我が国の産業競争力の強みであるものづくり製造業における次世代への技術・技能継承や人材育成は重要な課題であり、県としても本年の最重要課題として強力に支援して参る考えです。今後とも皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

最後に、本年が貴法人にとって更なる発展の年となりますとともに、皆様の御健勝と御活躍を心から祈念いたします。

新春
随想

「環境の時代」を迎えて

西日本オートリサイクル株式会社

代表取締役社長 和田 英二

21世紀は「環境の時代」と言われる。古い話であるが、大量生産・大量消費・大量廃棄の恩恵の中で育った小職が凡そ7年前に現職を拝命した時に或る先輩から贈られた言葉が“我々技術屋が今まで最もサボっていたのが「モノ壊しの技術開発」だ”と言うものであった。そこで思い出したのが20年以上も前に米国駐在中に雑誌の中で時々目にした企業の設備閉鎖に関わる“技術論文”である。日本に限らないが、設備投資（Investment）では技術者の英知を絞った技術が投入され、その成果や考え方が技術論文として紹介される例は多いが、この国では設備閉鎖・棄却（Divestment）というテーマも立派な論文として受け入れられるのだと言う驚きであった。環境とモノ壊しとは必ずしも共通語ではないが、モノに寿命がある限り使用済みになれば“壊す”行為が伴い、これも立派な

“技術”と認知される社会となるなら嬉しいし、その技術を“環境”と言う視点で改善・進化させるのも技術者の新たなる責務と言えよう。

我が社の事業である使用済み自動車の解体リサイクル分野では1年前に「自動車リサイクル法」が施行された。環境問題として最大の難問であった非金属物を主体とする破碎残渣（ASR）を徹底的にリサイクルして最終埋立量を極小化するのがポイントであるが、燃費低減をより大きなテーマとする自動車にとりASR量を減らすことはかなり難しいようである。従って今後の大きな技術課題は使用される部品や部材を効率的に分離回収する技術の確立であり、回収された非金属部材を資源として再利用する技術の開発であり、更に大きな課題はこれら回収物を物理的にも観念的にも受け入れる社会システムの構築であると思っている。

◆ 事業所めぐり

株式会社 響エコサイト

今回は、4回目の事業所めぐりです。昨年11月25日、後藤禎二理事と広報担当の三上が2人で当社を訪問、徳原英利社長、立塚祐二技術営業部長のお2人にお会いし、懇切なお話を頂いた後、施設を見学しました。以下は、その要約です。

◇ 会社概要

- 所在地 北九州市若松区響町1丁目62番の22
- 代表者 代表取締役社長 徳原 英利
- 設立 平成13年8月
- 資本金 8000万円
- 従業員 50名
- 事業 産業廃棄物リサイクル処理、一般廃棄物(木くず)リサイクル処理及び産業廃棄物収集運搬
- 出資者 太平工業(株)、北九州エコビジネス(協)、日鐵運輸(株)、(株)間組、新日本製鐵(株)

○会社の沿革と業況

当社の設立は平成13年8月、太平工業(株)をメインに、5者の共同出資会社として発足した。そのうち市内の解体業者のうちの15社で組織した協同組合が参加しているのが目を引く。

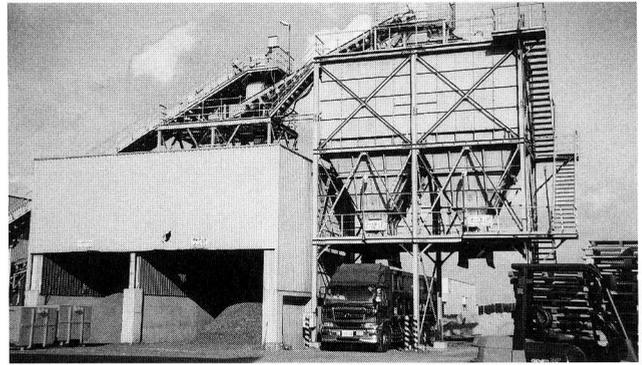
その立地は、リサイクル推進の先端を行く当市の広大な「北九州エコタウン」内、元新日鉄焼結工場跡地の一郭にある。

事業は、再資源化が遅れていた建設系廃棄物の再資源化であり、13363㎡(4050坪)の工場敷地内には、建設資材分別工場、廃木材処理工場、石膏ボード処理工場の3棟が連なる。

いわば親会社の事業とは異系列分野への新規参入であるが、その思い立ちには、当初計画当時には当エリア内に同業進出の予定が無かったことと、それに加えて焼結工場跡地ということへの思い入れもあったようである。

その操業開始は、設立から1年余を経ての14年11月、それからまる3年を経て4年目に入ったところである。

“石の上にも3年”、この3年間には種々生みの苦しみがあった。その要因は、地場の建設廃材の



量的な確保難だった。当社では、このネックを廃棄量が処理能力を上回っている首都圏からの海送で克服、現在でもこの広域収集が地元よりはるかに上回っているとのことである。

新規参入ゆえの種々苦勞も、この3年の実績の積み重ねで現在はようやく軌道に乗った段階、地元での認知度も向上、その収集量も漸増しつつあるようである。

○今後の展望と課題

当面の課題として徳原社長は、まず“収益面の自立化”を挙げられた。これで体力をつけて、内外の信頼を高め、社是に掲げる“地球環境の改善と地域社会への貢献”に向け、着実な前進を図りたいとの所信が述べられた。

ついで、外にない設備と処理方法を開拓して“響エコサイト・オリジナリティ”を構築していかなばという決意の披れきがあった。

この展望を後押しする有力な要因として、来年度中に供用開始が予定される「産業廃棄物専用岸壁(リサイクルポート)」がある。

現在利用している「公共専用岸壁」では、産廃規制が厳しく制約が多い、すぐ近接して設置される専用ポートではバラ荷が直接置ける、入りだけでなくリサイクル品出荷でもOK、その作業効率には目に見えてアップする。全国でもトップを切ったこの建設に、当社の寄せる期待は熱い。

待望のこのプレゼントを追い風に、当初予想より早まる当社の成長発展が期待される。

○E A21認証取得とK T Sへの期待

当社のエコアクション(E A)21の認証・登録は、平成17年10月3日。その契機となったのは、北九州市環境局の15年度、環境省の16年度のE A21導入セミナーへの参加だった。その後のフォローアップセミナーへの参加を経て、当K T Sの

横大路氏のコンサル支援、後藤理事（E A21審査人）の審査をパス、昨年9月地域事務局の認証を得た。

同業界の先鞭をつけたこの取得を通じて、社内の本課題への理解が深まり、目下内外へのPRに着手中であり、対外的な評価や実効はこれからといった段階である。

この過程で知ったK T Sへの感謝が述べられるとともに、まだ低い認知度の浸透と、域内中小企業への支援推進に強い期待・要望があった。

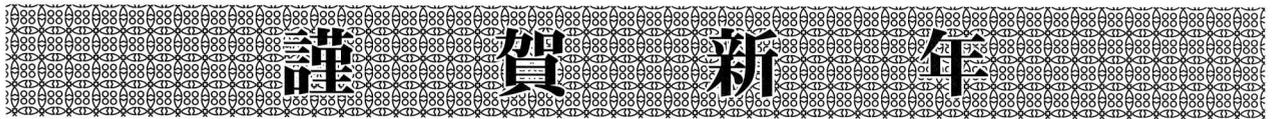
**編集
後記**

北九州T S ニュース第6号・新春号をお届けします。

本年は、NPO法人化後、4年目に入ります。この1年を顧みると、各支援部会活動をベースに、わがK T S活動が着実に前進、その認知度も向上してきました。特に昨年5月のエコアクション21地域事務局の設置は、先行き展望を明るくするエポックと言えます。

これからの1年、これらの実績を育てて発展の年としていく所存です。ご支援ご協力下さい。

なお末尾ながら、ご寄稿ご協賛頂いた関係各位に厚く御礼申し上げます。
(T・M)



産業用計装電気機器メーカー
MATSUSHIMA
松島機械研究所

□本社〔〒807-0831〕
北九州市八幡西区大字則松461番地
☎ **093(691)3731**
<http://www.matusima.co.jp>

- *テレビコール（高齢者や障害児用）
スイッチ1ヶでTVの電源ON-OFF、チャンネル変更、チャイムコール
- *ソフトフィットマウススティック
熱可塑性歯科材料使用、歯への負担を分散、新しいソフトフィットのマウススティック
- *ミニニックPC&SW:
小型2点スイッチ無線で、障害者用ソフト自由自在

高齢者・障害者の「快適」「自立」「就労」のために
有限会社 しまだ福祉用具研

代表取締役 嶋田 節子

〒805-0008 北九州市八幡東区枝光本町7-7 八幡ビル205
電話：093-671-0277 FAX：093-671-0288
e-mail：shima-ken@syd.odn.ne.jp

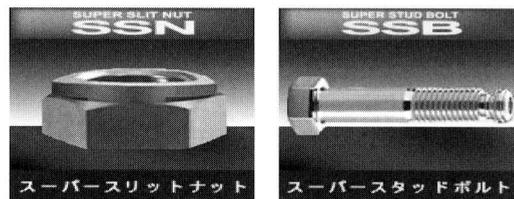


産業廃棄物処理
プラスチックリサイクル
溶剤リサイクル

高野興産株式会社

本社 北九州市八幡西区御開2丁目5-1 TEL 093-691-2790
北九州工場 北九州市若松区響町1丁目62-19

世界初、革命的発想！！
緩まない！スーパーボルト・ナット



◆詳しくはHPへ <http://www1.bbq.jp/daikikogyo>

大喜工業株式会社

〒801-0856 北九州市門司区浜町11-16
TEL:093-331-0761 FAX:093-332-4283

西日本オートリサイクル株式会社(WARC)

環境保全と完全リサイクルが当社のコンセプトです。

当社は、使用済自動車の従来の解体方式とは異なる、シュレダーダストを発生しない先駆的方式で、完全リサイクルに取り組んでいます
愛知万博「愛・地球賞」受賞
ISO14001認証取得

代表取締役社長
和田 英二

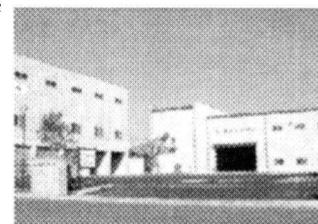
〒808-0021
北九州市若松区響町1丁目62番
(北九州市エコタウン内)
TEL(代表) 093-752-5090
FAX(代表) 093-771-4377
TEL(中古部品) 093-752-3270
FAX(中古部品) 093-752-5991



エコアクション21
認証・登録番号0000472



資源材料リサイクル促進で地域社会に貢献する
環境エコサイト



〒808-0021
北九州市若松区響町1丁目62番の22
TEL:093-751-3300 FAX:093-751-3377

謹賀新年

ウォータージェット&レーザー精密切断
精密な切断ならお任せ下さい。(多くの材質に対応)
切るだけでは駄目のお客様は精密板金部門で対応。

佳秀工業株式会社

(北九州メタルアート研究会事務局)

北九州若松区南二島二丁目24-10
TEL093-701-3131 FAX093-701-2111
ホームページ <http://www.kasyu.co.jp>
E-mail: kasyu@kasyu.co.jp

『モノづくり技術で社会に貢献する』

吉川機械工業株式会社

営業品目
・一般産業機械の設計製作及び
工作機械の修理、改造
・真空包装機械の製造
・介護ベッドの製造販売

〒804-0077
北九州市戸畑区牧山海岸4番17号
TEL(093)883-0884 FAX(093)883-0908
E-mail: yhkwan@yoshikawa-mi.co.jp
Home page: <http://www.yoshikawa-mi.co.jp>
Home page: <http://shindaigo.co.jp> 真空包装機械の紹介



より精密により高品質に！

ファインセラミックス&不定形耐火物

大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・
確実なレスポンスをモットーに、独自の
技術開発力を武器にダイナミックな展開
をしています。

大光炉材株式会社 〒804-0054北九州市戸畑区牧山新町1-1
新素材開発部 (ファインセラミックス)
<http://www.taiko-ref.com> Tel:093-871-8356, Fax:093-882-7300

CAD、CAMの導入・活用、
生産管理のご相談は当社へ！

ASA 株式会社 エーエスエー・システムズ

代表取締役 麻上俊泰

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL (093) 882-0100
FAX (093) 882-0066

各種表面処理に関することなら「美と機能を
創造する **ishikawa**」におまかせ下さい！

営業種目

- ①各種電気めっき
- ②プラスチック成形及びめっき加工
- ③各種研磨加工
- ④その他表面処理
- ⑤住宅関連機器販売及び施工、メンテナンス



石川金属工業株式会社

代表取締役 石川 増太

本社 〒802-8512
北九州市小倉北区赤坂海岸2番1号
TEL 代表(093)541-3331 FAX (093)541-3260
ホームページアドレス <http://www.ishikawa-k.co.jp>



GL PIPE JOINTS 好評です

GASKETLESS管継手

パッキンのいらない

新製品賞 '99中小企業
優秀新技術新製品賞
福岡県知事賞
中小企業先端技術展
福岡県知事賞

The Creative Corporation
株式会社 大創

福岡県北九州市八幡東区西本町4-5-1
TEL ☎(093)681-7195
FAX ☎(093)681-7196

ご質問・お問い合わせは 専用FAX:(093)681-7197

この町で地域医療のお手伝い。

株式会社キューリン
MEDICAL LABORATORY

〒806-0046 北九州市八幡西区森下町27番25号
TEL 093-642-3911 FAX 093-642-3967



“KOLA”

21世紀に向け最強!サイエンスの助っ人。

これからは、情報も技術も専門化の時代です。
遺伝子関連の技術は、**KOLA**にお任せ下さい。

KYURIN
MEDICAL LABORATORY



見込客発掘ツール



オートコール事業を始めました。

無人電話アンケートによる最新発掘方式
調査側も相手側も負担が小さい最適方式
ハガキ代と同じで全国何処でも調査可能

(株)ミツワ製作所 【担当:渡邊】

TEL: <093>471-7220
BLOG: <http://m27077980.ameblo.jp/>
MAIL: bouzai@mituwa-k.jp